

5歳未満のお子さんへの 新型コロナワクチン接種をおすすめします

— お子さんを新型コロナから守るために —



新型コロナは子どもにとっても脅威なの？

変異ウイルスの出現に伴って、**子どもの入院や重症化が増えています。**
なかでも、**5歳未満のおさんは重症化しやすい**ことがわかってきました。

2022年7月のオミクロンBA.5の流行で、
新潟県内の子どもの新型コロナによる入院の**約半分が5歳未満**でした。

入院の理由の多くは熱性けいれんや経口摂取不良による脱水症でした。

子どもの新型コロナの全国死亡例の調査では**約半分が5歳未満**でした。



新型コロナワクチンの接種のながれは？



3回の接種が基本です。

生後6か月から4歳のおさんの製剤はファイザー社製
ワクチンが承認されています。

mRNAの含有量：3 μ g
同社製12歳以上：30 μ g
5-11歳：10 μ g

他のワクチンとは前後2週間以上あけ、同時接種はできません。

インフルエンザワクチンとは接種間隔に関係なく接種でき、同時接種可能です。



新型コロナワクチンはどのくらい安全なの？

米国の研究※では、5歳未満のワクチン接種後の**心筋炎の発生はありません**でした。

発熱が11-19%、倦怠感が20%、翌日保育園や学校を休む人が5%ほどでした。

全身症状はプラセボ(ワクチン成分が含まれていない生理食塩水)を接種した場合と**同程度**とも報告
されています。※生後6か月から4歳の子どもの(約60万人)にワクチンを接種し、その後の体調の変化を調べた研究です。

5歳未満の子どもの新型コロナワクチンのオミクロンBA.1に対する

発症予防効果は75～82%との海外の報告があります。

新潟県の調査では、5～15歳の子どもの新型コロナワクチンのBA.5に対する

入院予防効果は75%で、5歳未満についても同様の効果が見込めます。

変異ウイルスの流行が子どもにとっても脅威になっていること、
ワクチンの有効性が分かってきたことから、5歳未満へのワクチン接種は
日本小児科学会から推奨、厚生労働省より努力義務が課されることになりました。

現時点ではワクチン接種が新型コロナ感染による

お子さんの入院や重症化に対する、唯一の積極的な予防手段です。

※すでに感染したおさんも含みます



詳細なデータや
くわしい解説は
こちらもぜひ
ご参照下さい。



- ✓ 基礎疾患があるおさんには、すみやかな接種
- ✓ おさんの入院や重症化を防ぎたい方は、すみやかな接種
- ✓ ワクチンについて迷っている方は、かかりつけ医との相談をおすすめします。

